

野生獣から農作物を守るために

イノシシ、シカ、サルによる農作物被害は年々増加し、御代田町でも至るところで獣による被害、踏み荒しなどの被害が発生し、農家にとって深刻な悩みとなっています。

特に繁殖力の高いイノシシ、シカは、捕獲に頼って減少させることは難しいのが現状です。大切な農作物を獣から守り、被害を最小限に食い止めるよう防護柵や電気柵などの防除対策を実施していただくようお願いいたします。

【イノシシ】
防護柵などの障害物に対しては、警戒しながら近づき安全を確認する。20cm程度の隙間があれば潜り抜けられる。鼻は鋭い嗅覚をもつ以外に土を掘る、障害物を動かすときにも使われる。鼻で50〜60kgのものを持ち上げることができ。鼻先は敏感で電気刺激などには弱い。

【シカ】
ほとんど助走せず1.5mの障害物を飛び越える能力がある。一方、防護柵などの障害物では隙間や下を潜ることが多い。

【サル】

普通、数十頭〜百頭程度の群れで生活し、百頭前後になると分裂する可能性が高くなる。また、被害軽減のための捕獲を行った場合にも群れの分裂が起きることがある。

サルは危険なときには高い所に逃げる習性があるが、人馴れが進むと人家や農地にも出没するようになる。

比較的避ける農作物は、トウガラシ、コンニャク、サトイモ、ゴボウが挙げられる。

防護柵の設置

トタン板、金網、ネット、電線などを使った防護柵が一般的で、獣により防止効果が異なりますが、侵入しやすい隙間をなくすることが全ての防護柵に共通する基本となります。

防護柵の種類別効果は表のとおりです。

防護柵の種類により長所短所があります。トタン板の外側を電気柵で囲うなど、防護柵を組み合わせることで高い防止効果がうまれます。

【トタン板の柵】図1

視界を遮る防護柵を設置する場合は

○地面に凹凸が多い所は平坦に整地し、トタンと地面の間の隙間をなくす。

○つなぎ目に隙間ができないようトタン板を十分重ねて設置する。

○支柱は1.6〜1.8m間隔に立て、ぐらつかないよう深く打ち込む。

○地面がやわらかい箇所は、支柱の間隔を狭くして強度を増すよう設置する。

○遮光ネットやビニールシートも目隠し効果はあるが、強度が弱い。

【金網フェンス・ワイヤーメッシュの柵】

イノシシ・シカに効果がある。

○支柱は2〜3m間隔に立て、傾斜地では強度を確保するため支柱の間隔を狭くする。

○高さはイノシシは1.5m、シカは2〜2.5mにする。

○地面との接地面は30〜40cm外側へ折り返し、ペグを斜めに打ち込む。

防護柵の特徴

防護柵	資材の特徴	囲い方などのポイント	効果
トタン板	幅80cmのトタンが効果的	おもにイノシシに対して有効。隙間をつくらないように設置	イノシシ ○ シカ × サル ×
金網フェンス	野生獣に押し広げられにくいように10cm以下の目合いがよい	対象獣に応じた柵の高さ、設置面の処理が必要。	イノシシ ◎ シカ ◎ サル ×
ワイヤーメッシュ	イノシシ用は、径5mm以上の鉄棒で、目合いは10cm以下のメッシュがよい	おもにイノシシに用いる。上部を折り返すと侵入防止効果が高い。シカ用には2mの高さが必要。	イノシシ ◎ シカ ○ サル ×
ネット	イノシシ、シカは金属線を編みこんだ獣害専用ネット(目合いは10cm以下)が効果的。サルはポリエチレン製・テグス製の網(目合い4〜5cm程度)を使用。	侵入方向にネットを垂らして侵入を防ぐ。	イノシシ ○ シカ ○ サル ○
電気柵(電型線)	アルミ線、針金あるいは金属線を編みこんだロープなどを使用	電圧のチェック、漏電防止のため草刈りが重要。サルを防ぐには侵入に時間がかかるようネットなど他の防護柵を組み合わせる。	イノシシ ◎ シカ ◎ サル ○
電気柵(ネット型)	通電性をもったネットを使用。	おもにサルに対して用いる。管理は同上。	イノシシ ◎ シカ ◎ サル ◎

効果:◎効果が高い、○効果がある、×効果なし

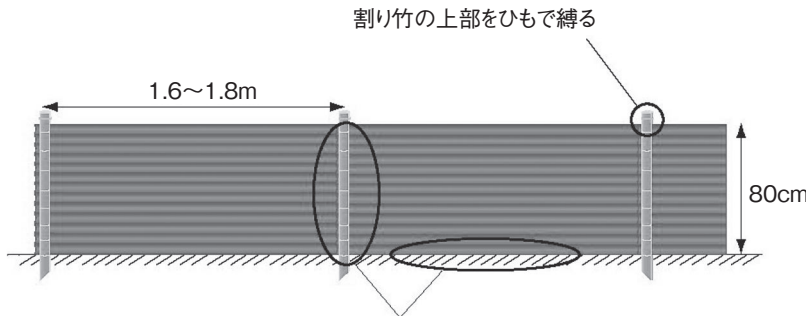
【ネット柵】

イノシシ・シカ用ネット

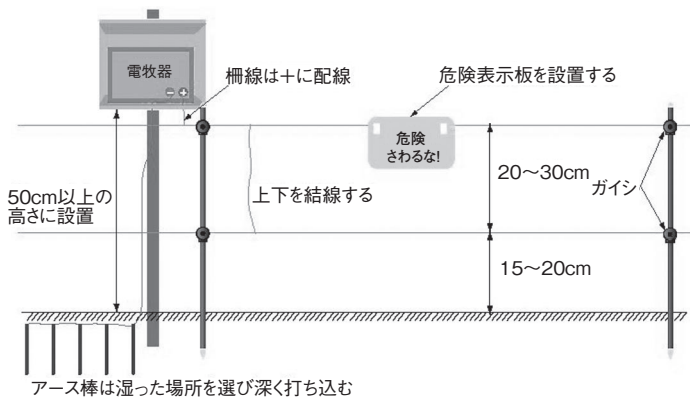
○数m間隔に支柱を打ち込み、ネットは緩めに張った方が噛み切れにくく、絡みやすくなり、防護効果が高くなる。

○ネットの大きさは、イノシシは1.5m、シカは2〜2.5mにする。

○地面との接地面はペグで固定する。



図Ⅰ トタン板の囲い方のポイント



図Ⅱ 電気柵(電線型で2段)の正面図

【電気柵】図Ⅱ

電線型はおもにイノシシやシカ、ネット型はサル用に利用されます。

○柵線の高さは獣で異なる。

イノシシ

最下線を地面から15cmの高さに、その上に20〜30cm間隔で1〜2本電線を張り、最上線を60cm程度にする。

シカ

最下線を地面から25cm以下、最上線を120cm程度にし、

その間に20〜25cm間隔で4段以上張る。

○電圧のチェックや漏電防止のための草刈りなど管理をこまめに行う。

町では、防護施設設置の資材費に對して1/3、上限10万円補助制度を設けています。内容はお問い合わせください。

問い合わせ先

産業建設課農林政策係

(内線26)

ごんいちには農業委員会です

御代田町農業委員会事務局 32-3-1-1 内線26・27

木障切り・間伐など樹木の管理にご協力を

皆さんの自宅や、所有している土地にある樹木の枝が、敷地を越えて隣接する農地や道路にはみ出ていませんか。

周囲に農地がある場合、葉が農作物へ落ちたり、日陰になり農作物の生育に支障をきたします。

苗木で植えた樹木でも10年後にはかなり大きくなります。20年も経つと剪定もままならなくなつてきます。

農業委員や事務局へは、日陰になつて耕作できないという問い合わせが多くあります。また、枝が道路に伸びていて、ほろ付のトラクターの屋根に接触したり、トラクターのブームが通れないところもありました。

他には、宅地の境界ぎりぎりに植えてある栗の木が10メートルを越えて、北側に隣接する畑にかぶさつていた例もあります。

樹木の管理はしっかりと樹木による日照不足や虫の発生は農作物には致命的です。

秋になると、落葉樹はもろろんのことですが、特にカラマツなどの葉は細いため、レタスやキャベツ・白菜などの葉の間に入り込んでしまい、商品として出荷できなくなつてしまいます。

問い合わせのほとんどが、所有地の境界ぎりぎりに植えられた樹木が原因です。責任を持って樹木の管理を行い、周囲へ迷惑のかからないよう改めて見直してください。そして最低でも一年に一回は木障切り(枝落とし)や間伐を行つてくださるようお願いいたします。